

【戦略プログラム 4. 農を活かした食の商品開発

②六次化などによる特産品開発、販路開拓

・公社や農家、民間事業者等による特産品開発を推進する。特に、農家への六次化支援に向けサポート窓口設置、使い易い支援制度の整備、特区活用等を推進する】

と、あります。上文に対して、意見、質問致します。

ワイン特区へ向けて、認定申請を求めます。その為に、認定申請に対して町としての考えや障害となっている事、また現在の進捗状況をご回答頂けると幸いです。それと共に、これを推進するにあたり、町民としてどのような活動が必要になるかも合わせてご回答をお願いします。

会津美里町の農業人口の推移を考えると、減少傾向にあることは全国の市町村同様であると思う。後継者不足も課題。

今後、町独自の取り組みとして後継者を確保し育成するために、この町を周辺市町村以上に、町内からの人口の流出を減らすこと、この町に魅力を感じ移住者からの定住を増やすことも必要だと考えます。りんご、梨、桃、葡萄など様々な果樹栽培が盛んなこの土地の魅力を活かすために、「ワイン特区」についてどのように考えられますか？

認定により最低製造数量基準が特区外の年間6キロリットルから、特区認定により1/3量の年間2キロリットルに減量することが認められる。

農業者や農家民泊を行う者、特区内のレストランなどが、自らの育てた果実や特区内の農業者によって育てられた果実を原料として果実酒を製造することが可能になる。すでに果樹の産地であるので、この畑や景観を守る為に、しいてはそれが熊や鹿、猪といった害獣などから生活する人々を守る為にも必要だと考える。

町内には日本酒の蔵元が2軒、ワイナリーが1軒ある。そこにワイン特区が認定されることで、栽培農家やレストラン、宿泊施設等に併設された小さなワイナリーが増える効果が期待される。数軒を巡る楽しみ、多種多様なお酒を選ぶ楽しみといったバリエーションが溢れる内容になると考える。

この延長として、町内でのワインツーリズム、アグリ+グリーンツーリズムの内容が充実し滞在時間・日数が増えることで来訪者の心に残る旅先になる。また、お酒と共に地元食材を合わせた食事、ゆっくりできる温泉施設や旅人と交流できるユース hostel やゲストハウス、今後増えることに期待される民泊、貸し切りタクシーや回遊バスの利用、本郷の焼き物、窯元巡り、そしてお土産を求めて... など、じっくり満足のいく消費に結びつくと考えられる。

農業者だけでなく、町内の様々な事業者、移住希望者、地域で暮らす町の人々など広くその影響があると想像される。よって、「ワイン特区認定」に向けて町の前向きな申請への取り組みをお願いします。